

篠養だより



「夢と希望を抱き 心豊かに たくましく生きる子の育成 ～ 明るく いきいきと ～」
◇丹波篠山市立篠山養護学校 ◇丹波篠山市沢田120-1 ◇tel 552-5237 ◇fax 552-6222
幼稚部1名 小学部20名 中学部11名 高等部13名 計45名 早期発達支援室3名 総計48名 No.16

精神の儀式 ～栄えある5名の皆さん! 卒業おめでとうございます!～

「卒業生、入場」

司会者の合図と同時に体育館の扉が開く。

入り口から、卒業生が入場してくる。

『威風堂々』のBGMに乗せて、家族や職員、在校生の温かな視線を感じながら、拍手を全身に浴び、花道を、いっばいっばかみしめるかの如く、少し照れ臭げに、でもちょっぴり誇らしげに、自分の席に向かって歩いていく。堂々と。そして、自席に着席。

拍手が鳴りやみ、会場が静まり返る。参列者全ての視線が対面する5名に注がれる。緊張の高まりが卒業生の表情を強張らせる。

その緊張が極度に高まった、その瞬間、「皆様、ご起立ください」

司会者の号令がかかった。

覚悟したかのように、真剣な面持ちで5人は直立した。

さあ、いよいよ卒業式の始まりだ。



(心のエール)

栄えある5名の皆さん。改めて、卒業おめでとうございます。

今日の本番を迎えるまでに、何度も練習を重ねてきました。上手くいかない経験も積んできました。そして何年もかけて、体で緊張を跳ね返せるほどに逞しく成長しました。

今、卒業式という校内最大の儀式に真っ向から挑む皆さんの姿を、私は、とても頼もしく感じています。そしてこれまで、ささようを支えてきてくれて「ありがとう!」の気持ちでいっぱいです。

今日のメインは卒業証書授与。証書には、「上記の者は本校高等部課程を卒業したことを証する」と書かれています。

この証書は、皆さんが高等部課程の学習を、最後まで粘り強く、あきらめずにやりきったからこそ手にすることのできる、とても尊いものです。

私は、第146号から150号までを読み上げました。精一杯読み上げたつもりですが、声は震えていたかもしれません。

皆さんにとってのもう一つの大きな役割。それは、「巣立ちのことは」でした。

次なるステージへの決意表明。

一人一人が、自分の言葉で、しっかりと感謝の気持ちと将来に向けての意気込みを語ってくれました。最後の「ありがとうございました」の感謝の言葉。5人の心が合わさり、言葉がそろうまでに、どれほど練習に時間を費やしたのか。私の頭の中を、いろんなことが巡りました。

わずか50分の儀式。でも、その50分の儀式の中に、まさに3年間の成長が凝縮されている。

そして、この儀式の場をもってして、なお、成長しようとする皆さんを前に、この卒業式が「精神の儀式」と呼ばれる所以が、少し分かるような気がしました。

どうか、皆さんが学んだ年数に違いはあれど、ささようで過ごした日々を誇りを持ち、次なるステージで大きく羽ばたいてください。

そして、忘れないでください。家族、先生、仲間、地域の多くの方々に見守られ、支えられ、今日の日を迎えられたことを、これからも、ずっとずっと皆さんを見守っている人がいることを、決して忘れないでください。



【体育館を飾る巨大壁画「和」】